

認知症サミット日本後継イベント2日目閉会式での 厚生労働大臣挨拶 (英語での挨拶を日本語訳したもの)

列席の皆様、まず皆様に御礼を申し上げます。偉大なる東京での後継イベントに参加下さいました、厚生労働大臣といたしまして、閉会の辞を述べさせていただきます。

認知症サミット日本後継イベント、無事に終えようとしております。

まず始めに、皆様に対しまして、2日間にわたる活発な御議論、そして精力的なご貢献をいただきました。どうもありがとうございました。昨日の専門分科会から始まりました、本日は様々なトピックスを扱いました、「認知症の状態に応じた適切な予防とケア」、「科学的アプローチ」、「認知症にやさしいコミュニティとICTの活用」、そして「将来に向けた課題」について、ということでした。私といたしましても、本イベントでの議論が、認知症の予防とケアの理論や実践の更なる発展へと繋がっていくことを期待しております。

さて、今朝、安倍総理大臣から認知症に関する新たな戦略の策定についての指示がありました。黒川先生もおっしゃった通りでございます。これは国を挙げた戦略ということで、認知症と戦うためのものです。総理の指示、そして本イベントで、この2日間行われました議論を踏まえまして 私は、新たな認知症戦略の策定に取り組んでいきます。こちらは現行の5か年計画に代わる、もっと総合的な認知症施策を推進するためのものです。高齢化がもっとも早いスピードで進む日本において、認知症施策のモデルを世界に向けて示していくという観点からも、今日は新プランを策定するにあたっての3つの基本的な考え方をお示ししたいと思います。

まずひとつですけれども、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指して、認知症地域包括ケアシステムを実現していくということです。早期診断・早期対応がこのシステムの鍵となります。医療・介護サービスが有機的に連携し、認知症の容態の進行に応じて切れ目なく提供されていくということなのです。また、身体合併症や妄想・うつ・徘徊等の行動・心理症状（BPSD）が見られ、認知症の人が医療機関・介護施設で対応を受けた後も、医療・介護の連携により地域生活が継続できる循環型のシステムを確立していきます。さらに、現行プランの数値目標の一部につきましましては、引上げを検討していきます。

二つ目といたしましては、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、省庁横断的に認知症に関わる施策全般の総合的な戦略をしていくということです。黒川

先生がおっしゃったとおりです。具体的には、普及啓発、生活しやすい環境の整備、生活の支援、就労・社会参加支援、安全確保、ICTの活用、介護者への支援、研究開発の推進、そして国際連携等の課題を含めていきます。

三つ目は、認知症の方御本人やその御家族の視点に立って施策を推進していくということです。これまでの認知症施策は、ともすれば、認知症の方を支える側の視点に偏りがちであったと思われます。本イベントで認知症の方御本人が自らの言葉でそのメッセージを世界に向けて発信されました。こういったことは、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけともなりました。それと同時に、多くの認知症の方に希望を与えたことと思います。認知症の方御本人やその御家族にしか分からない視点を大切にしながら、認知症施策を推進していきます。

このほか、ケアや予防に関する好事例を国際的に共有していくことも重要です。我が国から始まった認知症サポーターの養成の取組が、普及啓発の取組として世界的に広がっていくよう、我が国の取組を紹介していきます。

次の後継イベントは、来年2月にアメリカ政府の主催により「アルツハイマー病研究」をテーマとして、開催される予定と聞いています。米国でのイベントの成功を心からお祈りしております。

私は心から感謝を申し上げます。このような偉大なイベントを成功裡に導いて下さった方々、これは大きな一歩であり、明るい未来へ向けた歩みとなります。こちらの偉大なるイベントは成功裡に幕を閉じようとしております。

それでは最後になりましたが、認知症サミット日本後継イベントの閉会を宣言して、私の挨拶とさせていただきます。すべての参加者の皆様におかれましては、どこか、いつか、世界のどこかで、まあそんなに遠い将来ではない、近い将来に再会できることを楽しみにしております。ありがとうございました。